



Title	本特集について
Author(s)	宇野田, 尚哉
Citation	グローバル日本研究クラスター報告書. 2018, 1, p. 9-55
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68043
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【特集1】

国際ワークショップ

東アジアから原爆文学を読みなおす

本特集について

宇野田 尚哉

本特集は、2017年9月29日に韓国大邱の嶺南大学校で開催された国際ワークショップ「東アジアから原爆文学を読みなおす」の記録である。主催は嶺南大学校人文学事業団東アジア平和学チームで、原爆文学研究会と大阪大学大学院文学研究科グローバル日本研究クラスターが協賛するかたちをとった。その構成は次の通りである。

趣旨説明

崔範洵 (嶺南大学校)

セッション1 原爆文学研究の現状と課題—東アジアから問いなおす—

報告1 原爆文学研究の現状と課題—東アジアという視座から— 川口隆行 (広島大学)

報告2 原爆文学と朝鮮人被爆者・在韓被爆者—御庄博実の詩業を中心に—

宇野田尚哉 (大阪大学)

ディスカッサント発言

台湾から

李文茹 (淡江大学)

韓国から

曹銘根 (嶺南大学校)

リプライ・討論

セッション2 韓国の原爆文学をどう読むか

報告3 記憶の政治学と国境を消す苦しみの連帯

金文柱 (嶺南大学校)

ディスカッサント発言

日本から

村上陽子 (沖縄国際大学)

韓国から

権赫泰 (聖公会大学校)

リプライ・討論

総合討論

このうち、本特集には、趣旨説明・各報告・各ディスカッサントの発言の原稿を収めた。多岐にわたって活発に展開された討論の記録を収めることができなかったのは残念である

が、その一端は、2017年11月18日付『西日本新聞』文化欄掲載記事「『唯一の被爆国』とは異なる立場から／海外にも広がる〈原爆〉を読む試み」(内門博記者)や、『原爆文学研究会報』第53号(2017年12月、同研究会のホームページで閲覧可能)などで、すでに紹介されている。

本特集の末尾には、この国際ワークショップの企画の中心となった三人による「国際ワークショップを終えて」を収めてある。開催に至るまでの経緯、成果と課題、あわせて企画された陝川の原爆資料館へのスタディ・ツアーなどについては、この文章を参照されたい。意義の大きい今回のワークショップの総括としては不十分な文章ではあるが、次の展開を構想するためのとりあえずのメモとご理解いただけたら幸いである。